

中心市街地の近未来を考える ～「ウオーカブル シティ」の実験～

ver 002

令和7年2月22日

アイティデザイン研究所 逢坂 信治

■背景

2005（平成17）年10月、道営団地 サンライズ北二条団地が竣工し、入居したのが、この街での暮らしのスタートであった。街は20年ほどの時を経て、大きく変貌しようとしています。

1) 急増する定住人口

当時、コンパクトシティ構想がきっかけで、当団地が建設され。その後、市役所跡地に北見赤十字病院、隣地に道立北見病院などが建設され、さらに近年、高層集合住宅の建設が続いています。

2025（令和7）年12月、市街地再開発事業で建設中の分譲住宅棟（デュオヒルズ北見、14階建て、94戸）の入居が始まる。さらに、元信金本部跡地に道営住宅棟（30戸）の建設予定が続き、中心市街地では人口が急増しています。

従来この地区は、金融などマネジメントの街であり、人が定住する機能は持ち合わせておらず、ここで暮らす私たちが、歩きでの買い物などが出来、アミューズメント施設での娯楽があれば、なお暮らしが楽しく住みよい街になるのではと考えています。

2) ホテルが集中する街区→流入人口に期待

中級都市ホテル、ビジネスホテルなどが中心市街地に集中して立地しています。実体を把握していないが各ホテルに宿泊する、ビジネスや観光で北見を訪れる、お客様は相当数になると考えています。

四国遍路では、霊場を巡る巡礼者を「おへんろさん」と呼んで大切におもてなしをする風習があり、それを“おせったい”と呼んでいます。食べ物や飲み物を提供するのはもちろん、わらじを手渡したりというおせったいがあります。

北見を訪れるお客様に、「ようこそ北見へ」の遍路のおせったいができないかと、その舞台づくりを模索しています。

3) 中心市街地に新たなる発展の機会が

2023(令和5)年6月、中央大通沿道 再開発事業関連施設の解体工事が始まり、第1陣として、今年10月、休日夜間夜間急病センターがオープンし、引き続き、新経済センタービル・高齢者福祉施設・立体駐車場そして旧経済センター跡地が広場になるなど、2026（平成8）年までに完成の予定です。

また、上記再開発事業を進める「アルファコート北見中央大道沿道地区開発」が“みんなのHIROBA”ワークショップを立ち上げ、中心市街地の有るべき姿の研究が始まっています

中心市街地の街並みは大きく変貌を遂げようとしています。

今、人々が集い・交流し、街に賑わいを取り戻す、舞台装置を考える機会ではと強く強く思いを募らせています。

■ 中心市街地再開発コンセプト

中心市街地で「ウォーカブル シティ」の実験



歩きで生活が成り立ち、娯楽を楽しめる、まちづくり
地域の人々と旅人が楽しく交流するにぎやかまちづくり

※ウォーカブルとは

ウォーカブルシティ (Walkable City) とは、直訳すると「歩きやすい (歩いて行ける) 街」。自動車を使用せずに歩いて移動できる (バスなど公共交通機関の利用を含む) 街のこと。

「公共交通の充実」と「まちの賑わい」がウォーカブルシティ実現のポイントだと言われており、この2つが互いに作用することで、「公共交通によるアクセスの確保→回流人口の増加→まちの賑わいの創出→更なる集客」という好循環が生まれる。地域経済の活性化だけでなく、交流促進によるソーシャルキャピタルの向上や歩行量の増加による健康寿命の延長、過度な自動車依存から脱却することによる排気ガスの削減や道路や橋梁などのインフラの長寿命化など、様々な相乗効果 (クロスセクターベネフィット) の創出が期待できる。

出所 : <https://ideasforgood.jp/glossary/walkable-city/>

■ 具体的実現構想に向かって

- 1) 推進組織の立ち上げ
当面、市民が中心の活動グループ
- 2) 構想の具体的計画
 - ① 心市街地人口調査部会
定住人口や流入人口の調査
 - ② 中級スーパーマーケット (生鮮・ドラッグ・百キンの複合業態) の誘致検討委員会の誘致の可能性について検討
 - ③ “みんなのHIROBA”ワークショップとの協働
“みんなのHIROBA”ワークショップ (アルファコート北見中央大道沿道地区開発) との協調情報交換
- 3) スケジュール